

福祉生活病院常任委員会資料

(令和2年8月21日)

【件名】

- 1 「第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」予選審査会の結果及びWEB開催について
(障がい福祉課) . . . 1
- 2 「日本博を契機とした障がい者の文化芸術フェスティバル in 中国・四国ブロック」の開催について
(障がい福祉課) . . . 5
- 3 あるくと健康！うごとと元気！キャンペーン～とっとり健康ポイント事業～の実施について
(健康政策課) . . . 6
- 4 ハンセン病回復者との県民交流事業の実施について
(健康政策課) . . . 7
- 5 新型コロナウイルス感染症への対応について
(健康政策課) . . . 別冊
- 6 鳥取県新型コロナウイルス感染拡大防止のためのクラスター対策等に関する条例制定検討に係る県政参画電子アンケート結果について
(健康政策課) . . . 8

福祉保健部

「第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」予選審査会の結果及びWEB開催について

令和2年8月21日
障がい福祉課

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の本大会の予選審査会について、今年は審査員に集まっていたはず、事前に動画により審査していただいた集計結果をもとに、8月13日（木）にリモートで開催し、9月27日（日）に開催する本大会に出場する15チームを決定しました。

なお、本大会は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、WEB開催に切り替えて実施します。

1 本大会出場チーム

別紙1のとおり15チーム（16校※）を選出しました。

※合同チームが1つ（済美高等学校・松山聾学校）

2 本大会出場チームの選出状況

（1）本県から参加した6チーム（6校）のうち、2チーム（2校）が本大会に出場決定。

- ・米子東高等学校（3年連続3回目）〔得点順枠で選出〕
- ・鳥取城北高等学校（2年ぶり5回目）〔得点順枠で選出〕

※その他、本県から参加した、岩美高等学校、湯梨浜学園高等学校、琴の浦高等特別支援学校、境港総合技術高等学校は残念ながら予選通過ならず。

（2）本大会（本選）に初めて出場する学校が4校

- ・青森山田高等学校（青森県）
- ・明誠学院高等学校（岡山県）
- ・クラーク記念国際高等学校大阪梅田キャンパス（大阪府）
- ・大分東明高等学校（大分県）

（3）過去大会優勝経験のある4チームも本大会出場

第6回/第5回：真和志高等学校（沖縄県）、第4回/第2回：奈良県立ろう学校（奈良県）、
第3回：熊本聾学校（熊本県）、第1回：田鶴浜高等学校（石川県）

3 本大会演技順・選手宣誓チーム

（1）本大会演技順

別紙1のとおり

（2）選手宣誓チーム

鳥取城北高等学校

4 予選審査会の概要

（1）日 時：令和2年8月13日（木）午前10時から正午まで

（2）審査会実施方法：リモートにより実施

（3）審査員

審査員長：庄崎 隆志 氏（演出家・俳優 ろう者）

審査員：小中 栄一 氏（全日本ろうあ連盟 副理事長 ろう者）

門 秀彦 氏（絵かき 聞こえる人）

川井田 祥子 氏（鳥取大学地域学部 教授 聞こえる人）

(4) 本大会出場チームの選出

参加申込みのあった34チーム（別紙2）から提出された予選審査動画の審査により、本大会出場チームを選出しました。

①地方ブロック枠（6チーム） →6チーム選出

6つの各地方ブロック（北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄）で審査得点が最も高いチームを選出。

②得点順枠（6チーム以上） →8チーム選出（2チームは合同チーム枠、開催地枠から振り替え）

①の選出チームを除き、審査得点が高い順に8チームを選出。

③合同チーム枠（1チーム） →選出なしのため、得点順枠に振り替え

①及び②の選出チーム以外に、聴覚障がいを対象とする特別支援学校高等部とその他の学校で構成する合同チームの中で審査得点が最も高いチームを選出。

④初出場枠（1チーム） →1チーム選出

①から③までの選出チーム以外に、これまで本大会に出場したことがないチームの中で審査得点が最も高いチームを選出。

⑤開催地枠（1チーム） →選出なしのため、得点順枠に振り替え

①から④までの選出チームの中に開催地（鳥取県）のチームが含まれていない場合に限り、開催地（鳥取県）のチームの中で審査得点が最も高いチームを選出。

5 予選審査結果発表について

(1) 日 時 令和2年8月14日（金）正午から午後0時45分まで

(2) 発表方法 「手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル」YouTube 上で発表
(<https://www.youtube.com/user/skoushien>)

(3) 内 容

- ア 本大会出場15チームの発表
- イ 本大会の演技順の発表、選手宣誓チームの発表
- ウ 審査員長の講評

6 第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の概要

(1) 開催日時 令和2年9月27日（日）9:30~16:00（予定）

(2) 開催方法 **WEB開催**

ア 手話パフォーマンス甲子園について、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に配慮し、WEB開催に切り替える。

イ 無観客方式とするが、県内参加校（6校）を倉吉未来中心大ホールに集めて開会式等を実施。

ウ 会場内では感染防止対策を徹底。

<会場内での感染防止対策>

場所	主な感染防止対策
大ホール（開会式等実施会場）	<ul style="list-style-type: none">・関係者のみ入場可能。・入口で来場者の検温、手指の消毒、マスク着用。 ※37.5度以上ある場合はお断りする。・座席を左右2つ飛ばし、前後もずらし配置。・ホールの扉を開放し、換気を実施。・ろう者に配慮し、スタッフは透明マスクを着用。・国の基本的対処方針、県のイベント開催におけるCOVID-19感染拡大防止マニュアル等の内容を踏まえ、感染防止対策を徹底するとともに、全来場者の把握を行う。

(3) 出 場 予選を通過した15チーム

(4) 内 容 手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇等のパフォーマンス

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 本大会出場チーム一覧 (予選審査結果)

【①地方ブロック枠（6チーム）】※各ブロックで最上位チームを選出

ブロック名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1 北海道・東北	青森県	青森山田高等学校	あおもりやまだ	129	初出場
2 関東	東京都	クラーク記念国際高等学校東京キャンパス	くらーきねんこくさい	152	3回目
3 中部	石川県	田鶴浜高等学校	たつるはま	157	7回目
4 近畿	奈良県	奈良県立ろう学校	ならけんりつろう	175	7回目
5 中国・四国	岡山県	明誠学院高等学校	めいせいがかいん	156	初出場
6 九州・沖縄	熊本県	熊本聾学校	くまもとろう	170	6回目

【②得点順枠（8チーム）】※①を除く上位8チームを選出(③、⑤で選出がないことによる振り替え2チーム分含む。)

ブロック名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1 九州・沖縄	沖縄県	真和志高等学校	まわし	162	7回目
2 中国・四国	鳥取県	米子東高等学校	よなごひがし	156	3回目
3 中国・四国	愛媛県	済美高等学校 松山聾学校(合同チーム)	さいび まつやまろう	156	3回目 2回目
4 近畿	奈良県	聖心学園中等教育学校	せいしんがくえん	155	5回目
5 近畿	大阪府	クラーク記念国際高等学校大阪梅田キャンパス	くらーきねんこくさい	153	初出場
6 中国・四国	鳥取県	鳥取城北高等学校	とっとりじょうほく	153	5回目
7 中部	山梨県	身延山高等学校	みのぶさん	150	4回目
8 関東	東京都	大泉桜高等学校	おおいずみさくら	149	6回目

【③合同チーム枠（選出なし）】※②に該当チームが含まれるため選出なし

ブロック名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1 -	-	選出なし	-	-	-

【④初出場枠（1チーム）】※①・②・③を除きこれまで本大会に出場したことのない最上位チームを選出

ブロック名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1 九州・沖縄	大分県	大分東明高等学校	おおいたとうめい	133	初出場

【⑤開催地枠（選出なし）】※②に鳥取県チームが含まれるため選出なし

ブロック名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1 -	-	選出なし	-	-	-

【本大会の演技順】

順番	都道府県名	学校名	備考
1	大分県	大分東明高等学校	
2	鳥取県	鳥取城北高等学校	選手宣誓
3	山梨県	身延山高等学校	
4	東京都	クラーク記念国際高等学校東京キャンパス	
5	大阪府	クラーク記念国際高等学校大阪梅田キャンパス	
6	東京都	大泉桜高等学校	
7	奈良県	聖心学園中等教育学校	
8	青森県	青森山田高等学校	
9	熊本県	熊本聾学校	
10	岡山県	明誠学院高等学校	
11	石川県	田鶴浜高等学校	
12	沖縄県	真和志高等学校	
13	奈良県	奈良県立ろう学校	
14	鳥取県	米子東高等学校	
15	愛媛県	済美高等学校・松山聾学校	

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 参加申込みチーム一覧

別紙2

■参加申込 34チーム(35校)

ブロック名	チーム数	学校数	No.	都道府県	学校(チーム)名	よみ	※ 参加実績	備考
北海道・東北	1チーム	1校	1	青森県	青森山田高等学校	あおもりやまだ	初	
関東	4チーム	4校	2	東京都	クラーク記念国際高等学校東京キャンパス	くらーきねんこくさい(とうきょう)	5	
			3	東京都	大泉桜高等学校	おおいずみさくら	7	
			4	東京都	豊南高等学校	ほうなん	6	
			5	神奈川県	二俣川看護福祉高等学校	ふたまたがわかんごふくし	5	
中部	7チーム	7校	6	石川県	田鶴浜高等学校	たつるはま	7	
			7	山梨県	身延山高等学校	みのぶさん	7	
			8	愛知県	安城生活福祉高等専修学校	あんじょうせいいかつふくし	6	
			9	愛知県	岡崎東高等学校	おかざきひがし	5	
			10	愛知県	桜花学園高等学校	おうかがくえん	6	
			11	愛知県	古知野高等学校	こちの	初	
			12	愛知県	杏和高等学校	きょうわ	6	
近畿	7チーム	7校	13	三重県	久居高等学校	ひさい	2	
			14	京都府	京都府立京都八幡高等学校南キャンパス	きょうとやわた	4	
			15	大阪府	クラーク記念国際高等学校大阪梅田キャンパス	くらーきねんこくさい(おおさかうめだ)	3	
			16	大阪府	大正白稜高等学校	たいしょうはくりょう	初	
			17	兵庫県	鳴尾高等学校	なるお	5	
			18	奈良県	奈良県立ろう学校	ならけんりつろう	7	
			19	奈良県	聖心学園中等教育学校	せいしんがくえん	5	
中国・四国	10チーム	11校	20	鳥取県	湯梨浜学園高等学校	ゆりはまがくえん	初	
			21	鳥取県	鳥取城北高等学校	とっとりじょうほく	7	
			22	鳥取県	琴の浦高等特別支援学校	ことのうら	3	
			23	鳥取県	境港総合技術高等学校	さかいみなとそうごうぎじゅつ	7	
			24	鳥取県	岩美高等学校	いわみ	7	
			25	鳥取県	米子東高等学校	よなごひがし	3	
			26	岡山県	岡山県美作高等学校	おかやまけんみまさか	3	
			27	岡山県	明誠学院高等学校	めいせいがくいん	2	
			28	香川県	高松南高等学校	たかまつみなみ	5	
			29	愛媛県	済美高等学校	さいび	3	合同チーム
			29	愛媛県	松山聾学校	まつやまろう	2	
九州・沖縄	5チーム	5校	30	福岡県	大和青藍高等学校	やまとせいらん	6	
			31	福岡県	三井高等学校	みい	7	
			32	熊本県	熊本聾学校	くまもとろう	6	
			33	大分県	大分東明高等学校	おおいたとうめい	7	
			34	沖縄県	真和志高等学校	まわし	7	

※参加実績欄 数字は参加回数(今大会含む)、「初」:初参加校

【申込み数】

チーム数	34
学校数	35
都道府県数	19

【参加実績内訳】

初参加校	4
過去参加校	31

「日本博を契機とした障がい者の文化芸術フェスティバルin中国・四国ブロック」 の開催について

令和2年8月21日
障がい福祉課

日本博のプログラムの一つとして、障がい者が発信する文化芸術の祭典「日本博を契機とした障がい者の文化芸術フェスティバルin中国・四国ブロック」を9月5日(土)、6日(日)に倉吉未来中心で開催します。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮し、ステージイベントについては無観客開催・インターネットでの映像配信とします。

※日本博:2020年東京オリパラを契機として、総合テーマ「日本人と自然」の下に、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで、更なる未来の創生を目指した文化芸術プログラム。

1 概要

- (1) 日 時：令和2年9月5日(土)、6日(日) 10:00～17:00 ※アール・ブリュット展のみ10日(木)まで
- (2) 場 所：倉吉未来中心(倉吉市駄経寺町)
インターネット配信URL <https://shougaisya-fes.jp/>
- (3) 内 容：障がい者による舞台芸術公演やアール・ブリュット展など
- (4) 主 催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク、障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会、日本博を契機とした障がい者の文化芸術フェスティバル中国・四国ブロック実行委員会(事務局：鳥取県)、鳥取県

2 プログラム

- (1) ステージイベント(無観客開催・インターネット映像配信)
大ホール及びアトリウム特設ステージで、舞台芸術公演や公募団体等によるステージ発表を実施。
 - ① オープニングセレモニー(5日・大ホール)
主催者挨拶、オープニングアクト等(中国・四国各県知事や障がい者によるZoom等でのライブ出演や開幕宣言を予定)
 - ② じゅう劇場公演(5日・大ホール)
『「マクベス」からさまよい出たもの2020』を上演
 - ③ 石見神楽公演(6日・大ホール)
いわみ福祉会(鳥根県)による演目「大蛇^{おろち}」を上演
 - ④ 中四国各県からの推薦団体、県内公募団体による歌や演奏、ダンス等(5,6日・アトリウム特設ステージ)
中四国各県からの推薦団体：8団体、県内公募団体：17団体
 - ⑤ ゲストパフォーマーによるステージ(アトリウム特設ステージ)
5日(土)：ダンディー坂野(トークショー)、6日(日)：かんばらけんた(車いすダンスパフォーマンス、トークショー)
- (2) 企画展・展示(入場者数を制限して開催)
ステージイベントと並行して、企画展や展示を実施。
 - ① アール・ブリュット展(5～10日・小ホール)
「日本人と自然」をテーマに、中四国地方の作家を中心とした100点程度のアール・ブリュット作品を展示。
※アール・ブリュット：伝統や流行・教育などに左右されず、自身の内側からわきあがる衝動のままに表現した作品。
 - ② 中国・四国ポスターセッション(小ホールホワイエ)
 - ③ あいサポートコーナー、全国障害者芸術文化祭PRコーナー(小ホールホワイエ)

あるくと健康！うごく元気！キャンペーン～とっとり健康ポイント事業～の実施について

令和2年8月21日
健康政策課

県全体で健康意識の醸成、健康づくりに向けての行動変容及び地域での活動・交流の活性化を図ることを目的に、県が策定している鳥取県健康づくり文化創造プランの理念である「健康づくり文化」の定着と「健康寿命」の延伸を目指すため、平成30年度から「健康県民マイレージ事業」を実施していますが、今年度は事業の名称を「あるくと健康！うごく元気！キャンペーン～とっとり健康ポイント事業～」に変更し、若年層や無関心層の参加を促進するため、新たにアプリを導入して事業を展開します。（従来の紙ベースでの参加も継続。）

【事業概要】

- (1)対象者 県内に在住または勤務・就学している方
 (2)事業実施主体 県(ウォーキング立県19のまちを歩こう事業実行委員会(NPO法人未来)に委託)
 (3)実施期間 令和2年10月1日～12月31日(3か月間) ※参加申込期間:9月1日～11月末
 (4)内容

○ポイント付与の対象項目

日々のウォーキングのほか、健診受診、スポーツ(ジムやスポーツ練習)、日常屋内でできるストレッチなどの運動、地域・ボランティア活動、スポーツ大会・ウォーキング大会参加、健康づくりイベントへの参加

○ポイントの報告

- ・アプリによる参加者は、日々の歩数が自動集計され、歩数以外の項目は参加者が専用Webページにて入力することで集計
- ・アプリ以外の参加者は、報告用紙をメール、ファクシミリ又は郵送で事務局へ報告(1/20まで)

○景品贈呈

対象期間内の記録を報告した者のうち、200ポイント以上を獲得した者の中から、抽選で500名に総額100万円以上の景品を贈呈

<景品>

マッサージチェア(ファミリーイナダ株式会社)、電気圧力鍋(有限会社大志)など協賛企業から提供いただいたものや、県産品、健康関連グッズなど

○その他

- ・対象期間内の記録を報告した者に参加賞をプレゼント(景品当選者を除く)
- ・参加者アンケート調査の実施

実施終了時に参加者にアンケート調査を実施し、実施前後の行動変容を把握

(参考)令和元年度の参加状況

(単位:人)

参加人数	性別			年齢									
	男	女	未回答	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	未回答
1,295	474	778	43	27	74	138	216	238	229	204	103	8	58

ハンセン病回復者との県民交流事業の実施について

令和2年8月21日
健康政策課

ハンセン病人権問題への理解を深めるため、一般県民の参加を募り、国立ハンセン病療養所を訪問する「ハンセン病回復者との県民交流事業」を実施します。

なお、新型コロナウイルス感染症予防の観点から例年より規模を縮小し、感染予防対策をとった上で実施する予定ですが、状況によっては急遽中止する場合があります。

1 事業概要

- (1) 実施日時 令和2年11月19日(木) 午後1時～4時45分(予定)
- (2) 訪問先 国立療養所長島愛生園、国立療養所邑久光明園
(岡山県瀬戸内市邑久町虫明)
- (3) 参加者の募集内容 東部・中部・西部 各12名程度
- (4) 申込期限 令和2年10月30日(金)
- (5) 参加者の決定
参加者多数の場合は初めて訪問される方を優先し、それでも多数の場合は抽選の上決定する。

2 訪問内容(予定)

- (1) 人間回復の橋「邑久長島大橋」見学
※昭和63年5月9日に本州と長島を結ぶ橋として開通
- (2) 長島愛生園
 - ①歴史館展示室見学、ビデオ視聴
 - ②歴史回廊見学
 - ・収容棧橋(隔離患者が上陸)
 - ・回春寮(入所手続、消毒等を実施)
 - ・監房(逃走した入所者を懲戒的に収監)
 - ・目白寮跡(歌人として有名な明石海人(あかしかいじん)が入所していた寮の跡地)
 - ③納骨堂お参り、焼香
 - ④入所者の方の講演(リモート講演等を検討中)
- (3) 邑久光明園
納骨堂お参り、焼香

3 その他

- (1) 昨年度参加者の感想(抜粋)
 - ・本物を知る、触れることの大切さを学んだ。
 - ・ある程度理解しているつもりでいたが、実際の声や現実を目の当たりにし、衝撃と感銘を受けた。現地で学習することの大切さを改めて感じるが多かった。
 - ・実際に目で見て、今まで感じていたことよりずっとずっと厳しい現実があり、胸がとてもしめつけられる思いだった。広く世の中の人々にハンセン病のこと、そして隔離されて生きてこられた方々のことを知ってもらいたいと思った。
- (2) これまでの実績
平成13年から実施、過去5年の参加状況(一般県民)
 - ・R1:44人、H30:53人、H29:56人、H28:47人、H27:45人

鳥取県新型コロナウイルス感染拡大防止のためのクラスター対策等に関する条例制定検討に係る県政参画電子アンケート結果について

令和2年8月21日
健康政策課

鳥取県新型コロナウイルス感染拡大防止のためのクラスター対策等に関する条例の制定を検討するに当たり、クラスター（患者集団）が発生した施設等の名称の公表、使用の停止、患者、医療関係者等の差別的取り扱いの禁止などを規定することについて、県民の皆様に幅広く御意見を伺うため、県政参画電子アンケートを実施しましたので、その結果等について報告します。

1 実施期間

令和2年7月29日（水）から8月4日（火）まで

2 回答状況

(1) 回答率：67.9%（回答者数404人／会員数595人）

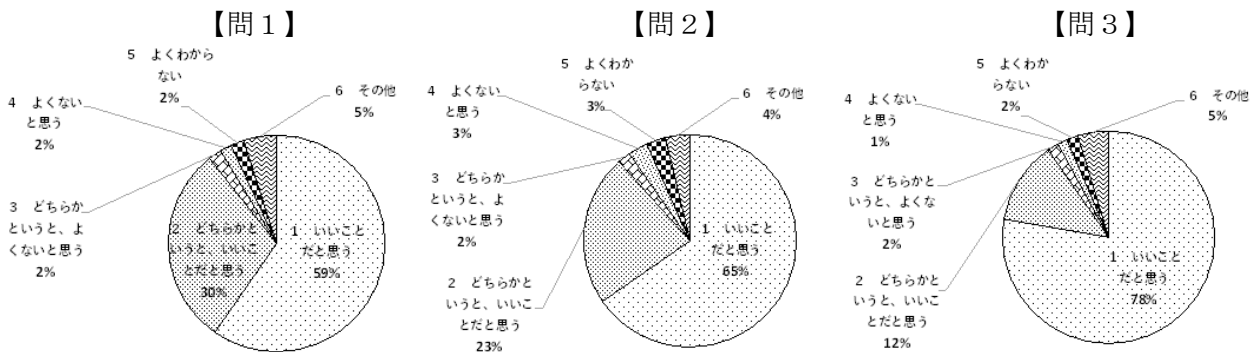
(2) 回答者の内訳

- ・性別 男性173人（42.8%）、女性231人（57.2%）
- ・年代 10代（12人、3.0%）、20代（42人、10.4%）、30代（77人、19.1%）、40代（125人、30.9%）、50代（72人、17.8%）、60代（45人、11.1%）、70代（25人、6.2%）、80代（6人、1.5%）

3 結果概要

(1) 問1～問3について

【問1】クラスターが発生した施設等の名称の公表、【問2】施設の使用の停止、【問3】患者、医療関係者等の差別的取り扱いの禁止について、それぞれ条例に規定することについての意見を伺ったところ、どの設問項目に対しても、約9割の方が、「いいことだと思う」、「どちらかという、いいことだと思う」との回答でした。年代別でも、ほぼ同様の傾向でした。



(2) 問4の自由記載による主な意見

- ・誹謗中傷はあってはならない。この条例で誹謗中傷等がなくなることに期待。
 - ・施設名を公表する際は、その理由も明示すべき。感染防止を行っていたのにクラスターが発生してしまったのなら批判する人はいないと思う。
 - ・極力、強権的であってはならない一方で公表・対策についてはスピード感も重要と思う。
- など 計146件